

令和 8 年度 佐賀市地域包括支援センター運営委員会 議事録

佐賀市保健福祉部高齢福祉課

◆ 開催日時 令和 8 年 8 月 20 日（木）14：00～15：20

◆ 開催場所 佐賀市役所本庁舎 4 階大会議室

◆ 出席者

◎出席委員（敬称略 五十音順）

大塚卓、北村めぐみ、木村泰代、坂井沙織、凌文子、清水美由紀、庄野賢二、中里栄介、
松永高政、松本博、山口敏伸、山下美保、吉原正博

◎事務局（佐賀市）

牛島保健福祉部長、横田高齢福祉課長、金子副課長兼介護予防係長、馬場地域包括支援係長、
鈴江政策主査、末次主査、吉川主査、芹田認知症初期集中支援チーム員、鶴丸保健師

◎各地域包括支援センター代表者

管理者等 13 名

◆ 傍聴者 1 名

◆ 議事要旨

1. 開会

2. 佐賀市保健福祉部長あいさつ

3. 議事

（1）佐賀市地域包括支援センター運営委員会

①令和 7 年度地域包括支援センター事業報告

《事務局説明》

《質疑応答》

○委員

地域包括支援センターの総合相談支援件数の内訳について、「その他」が 2 番目にあり具体的な内容は補足で記されているが、その中で何が一番多いのか。

○事務局

本日情報を持ち合わせていないため確認後、後日回答する。

②令和 8 年度地域包括支援センター事業計画

《事務局説明》

《質疑応答》なし

③高齢福祉課の関連事業

《事務局説明》

《質疑応答》なし

(2) 認知症初期集中支援チーム検討委員会

《事務局説明》

《質疑応答》なし

(3) 佐賀市地域ケア推進会議

《事務局説明》

《質疑応答》

○委員

地域ケア会議に参加しているが会議後のフィードバックがない

○地域包括支援センター管理者

佐賀中部広域連合のアドバイザー派遣事業においては、包括が会議終了後モニタリングを実施した内容について佐賀中部広域連合へ報告をしており、その内容については佐賀中部広域連合から各専門職団体へ共有されている。

(4) 全体を通しての質疑応答

○地域包括支援センター管理者

障がい者の高齢化が進んできており、介護保険サービスと障がい福祉サービスを併給しているケースが増えている。介護支援専門員、相談支援専門員の役割について整理が必要と感じる。

○事務局

確かに併給するケースは増えており、今後も増加していくものと思われる。障がい福祉担当部局と確認を行う。

○地域包括支援センター管理者

酷暑が続く中で、エアコンを使用する習慣がない高齢者等も多く、訪問支援を行う中で命に直結する問題だと感じている。また酷暑の影響から外出を控えることで身体機能の低下にも繋がっているように感じている。

○事務局

佐賀市の熱中症対策としてイベント前倒しや、避難所対応も見据え小中学校へスポットクーラーを設置等の動きがある。「健康会議」の中では、「涼み処」の拡充について民間企業へ協力依頼を求める他、暑熱順化の周知について民生委員と連携し実施した。救急搬送は増加傾向だが昨年度より低い水準となっている。今後も熱中症対策の拡充を図っていく必要があると考えている。

○委員

加齢による暑さ感受性の低下や認知機能低下による季節認識の困難さ等がある。近隣からの声掛け等地域のネットワークが重要だと考えている。

○地域包括支援センター管理者

山間部では元々クーラーがない家もある。地域ケア会議を開催し、暑さ対策として涼み処の設置等話が出た。佐賀市ではどのように周知をされているのか。また、公民館等に涼み処を設置することで居場所づくりの意味でも活用しやすいのではないかと考えている。

○事務局

周知は市報等で行っている。健康会議の中では涼み処の設置については民間企業が多く手を挙げている。涼み処の設置に興味のある民間企業等あれば、市の動きについて情報提供頂きたい。

○委員

オーラルフレイルについては50歳頃から診療報酬の算定対象になる等早期段階での対策が有効。その点も考慮した対応を検討頂きたい。

○事務局

今年度介護予防事業の自主グループ、5団体で歯科医師会から講師を派遣して頂き、オーラルフレイルの口腔ケアの重要性について話をしていただく機会を設けることになっている。

50歳頃からということであれば、高齢福祉課だけでなく健康づくり課とも情報共有を行いながら対策を検討していく。

(5) 閉会